

1985・8

第 15 号

しろこぼと

日本野鳥の会埼玉県支部



本部の会員制度改正案を考えよう

先に4月号でお知らせした通り、本部から会員制度の改正案が示されています。本部の会員制度ではあるけれど、今まで支部だけの会員だった方が、実は最も影響を受けます。支部のあり方の根幹にもかかわる問題である

だけに、会員の皆さん全員の意見を十分に反映させなければなりません。あらためてご説明するため、「新案の内容」「なぜ改正なのか」などについて、本部から支部への連絡誌『バードニュース』5月号から転載します。

新案の内容

年会費	入会金	野鳥	支部報	会員証	※会員特典	説明
① 4,000円+(現行支部費)	500円	○	○	○	○	現在の本部・支部加入の会員で、本会の活動の中心的な存在
② 4,000円	500円	○		○	○	現在の本部のみ加入の会員で、将来支部会費が統一されるまでの暫定的なもの
③ 500円+(現行支部費)	500円		○	○	○	現在の支部のみの加入の会員が、(財)日本野鳥の会の会員となるように考えられた今回の改正案の主眼
[家族会員] 1,000円				○	○	①②③と同一住所内で生活を共にしている家族1人1人を対象にしたもの

- ※会員特典とは
- ① 本会会員として自然保護活動に参加できる。
 - ② 探鳥会等の行事の情報が得られる。
 - ③ 協定旅館の割引宿泊ができる。
 - ④ 販売物等の会員価格の適用。

なぜ今、会員制度の改正なのか

会員制度については、すでに10年間にもわたる議論が繰り返されてきました。2年前には、会員制度検討委員会から理事会に答申が出されたものの、内容については、多数の支部から、複雑すぎて事務面でとても対応できないという声が寄せられ、実現に至りませんでした。

本会が自然保護を推進する上で、会員増加は何よりの力となります。これに対応できるよう、入会しやすく、また逆に説明しやすいもの、会員の多様な要求に対応できるもの、事務的に簡略化された会員制度が必要です。

現状は、支部会費が支部ごとに異っている

ため、全国規模で本会のPRを行う時は、支部会費の具体的な表示ができません。本部会費を表示して、本部会員のみを増やしていくことはそう難しいことではありませんが、会の将来を考えた時に、本部だけの会員、支部だけの会員が増えることは、組織的に望ましくないと考えています。

また、評議員のほとんどを支部が選出し、その評議員が本会の最高決定機関としての理事を選出する、という組織上の仕組みから見ても、すべての支部会員が(財)日本野鳥の会会員となることで、組織的にすっきりします。

さらに、将来、会員数が5万人、10万人と拡大した際の支部、本部の事務量軽減のため

の事前準備として、今の会員数（15000人）で会員制度を整えておくことは必須です。

新会員制度の検討をきっかけに、オフコン導入の夢も具体化の方向で動き出しました。近い将来、すべての会費の取り扱いは本部で一括して行うことも可能になり、支部の事務量は大幅に軽減されることにつながります。

日本で有数の自然保護団体として、社会的にも大きな期待や関心を寄せられている今日、ひとつの組織としてまとまって社会に貢献するための基盤作りである会員制度を、今、見直す時期にきていると考えます。

今後のスケジュール

改正案の方向は、すでに評議員会で了承されていますので、細かい点について各支部からのご意見をまとめ（8月末）、再度検討し、常務会（9月）、理事会（10月）、評議員会（11月または12月に文書による評議員会）の順序で承認を得た上、来年1月の理事会お

実際的な影響は

本部と支部両方の会員になっている方 直接の影響はありません。

支部だけの正会員にとって 理屈から言えば、新制度実施時に本部入会金 500円払い、年会費は500円高くなり、本部C会員になるわけです。（もちろんこれを機会に本部A会員になる事もできます）。しかし、入会金500円は払わなくてもすむよう、県支部として本部に意見を言う事は可能です。

家族会員にとって 今まで支部へ払っていた年会費1,000円をそのまま本部へ払って家族会員となります。



カ
ット
・比
企
裕
（
所
沢
市
）

よび2月の評議員会で寄付行為改正の承認をいただき、一定の準備期間とともに、来年度から新会員制度を実施する方向です。自然保護を推進するために、より大きな力となる会員制度を実現させるために、ご協力をぜひともよろしくお願いいたします。

ジュニア会員にとって 本部にジュニア会員制度ができるまでは、従来の通りです。

事務局にとって 会費取扱い、会員名簿管理、支部報発送用宛名ラベルの印刷などが一括して本部でできるようになり、大助かりです。

そもそも本部と一体となって自然保護活動を推進しようという基本方針をとっている私たちにとって、今回の本部支部一体化を目指す新制度は、むしろ当然の方向性と言えるかも知れませんが、会費増が気になります。

ぜひあなたのご意見をお聞かせください。

カワガラス（カワガラス科）

秩父の吉田川も4月中ごろになると、ジツジツとカワガラスの1番子が巣立ち始める。いたいた。お気に入りの石の上で、ピッと短い尾を上げた得意のポーズ。今日の獲物はアブラハヤと川虫。

驚くほど長い時間、水の中に潜っている。

アレっ？と思うほどだ。そしてかならず、エサをくわえ出てくる。意外に頭が小さいのにも驚く。

こげ茶色の目立たない体……でも、マニア好みの鳥なんですよ。

（表紙の写真・丸山政弘、文・豊田 隆）

大盛況だった『日本野鳥展』



△人でいっぱいの会場でお手伝いの少年たち

寄居町（商工観光課）と県支部との共催で、去る6月16～23日の8日間、『日本野鳥展』が実施された。

会場の寄居町勤労福祉センター1階全フロアには、県内や寄居地区の野鳥をはじめ、日本各地の山野や水辺の鳥のパネルが、70点以上。超望遠レンズ付カメラ、望遠鏡、野鳥の図鑑や、バードカービングの展示。特別参加の本泉小学校バードウォッチングクラブによる「鳥たちの表情」コーナーなど。多彩な展示が、目を楽ませさせてくれた。

野鳥数当てクイズ（正解者にはプレゼント）は、子どもたちに好評。16日と23日の日曜日のメインイベント「野鳥の話とスライド」や映画「ミニサンクチュアリ」などには毎回、100人以上もの入場者で、大盛況だった。

期間中の延べ入場者は、寄居町長・教育長を含めて、約2千人。人口3万5千人の寄居町の一大イベントだった。実物大の“タンチ

ョウ”カレンダーが飾られた、会場入口の大ピンへ寄せられたツル保護基金は5万円。野鳥の会オリジナル販売物の売上げは、ざっと20万円。野鳥の会への入会申込は、その場で6名。入会申込その時から手伝ってくれた少年も含めて、ボランティアは、延べ100人以上（氏名は8ページに掲載）。

23日には、最終日を飾るべく、天候にも恵まれ、約600人もの入場。寄居の野鳥のパネルを多数出品された小倉さん（北本市）や、バードカービングを展示された増田さん（和光市）などと、当町の酒井さん差し入れの手打ちソバを賞味しながら、改めて、寄居地区の会員の底力を認識。

当地区での会員急増の秘訣の一端は、細やかで暖い気配りに支えられた会員相互の人的な信頼関係にあるのではないかと、との思いを胸に、「心の会としての野鳥の会」の一員であることの幸せを感じつつ、会場を後にした。

レポート・西城戸 司



◀ ツル保護基金を本部に寄贈。腕章に注目！（渋谷・事務局で）

“しらこぼと探鳥会”に参加して

加藤 均（練馬区）

過日、6月23日の“しらこぼと探鳥会”はいろいろと、ありがとうございました。埼玉県支部に入っていて何分にも、「県鳥を一度も見ない」なんて話をするので、笑われま

ほんとうにありがとうございました。

さて、帰途はひとり、皆さんと別行動をしてしまいました。すみません。海老原さんに言われたとおり、やはり“草合せ”でした。

一応、草合せで私が確認したものは、下記

のとおりですが、疑問のあるものは、『?』としました。

範囲は、古利根川を見てから香取神社までの行程で、歩いた道から左右それぞれ、4～5m以内ぐらいにあったものです。何分にも、数時間でしたので、誤認もあると思います。

アシ ケイヌホオズキ アメリカヤマゴボウ セイヨウタンポポ ドクダミ ヘビイチゴ セイタカアワダチソウ スズメノカタビラ シロザ アカザ ケヤキ チカラシバ クロバキ カワラケツメイ(?) (カワラヒワの食べたもの) スズメノテッポウ アズマザサ(?) ツユクサ シダ類 イヌタデ タビラコ オオバコ ヒルガオ コウゾリナ ヒメジョオン ハルジョオン チドメグサ ニ

ワホコリ マダケ(?) オナモミ ッタ類 ウキクサ類 ノビル ギンギシ ヤナギ(?) ヨモギ ネム エノコログサ ブナ ススキ フキ コンフリ - アカマツ(?) イヌスギナ (“類”としたのは、精査しないと判断できないもの。ウキクサ類は、水中に入らないことにはどう仕様もない。ただ橋上から“見る”しかできないので…。”?”は、恐らく“そうだろう”という程度で、これも近くでよく見ないと断定できず、ほぼ間違いはない、と思われる程度です。さらに、アシの中については、セッカがいるため、どう仕様もない。この事情は、皆さんもご存知のとおりですね。) 純な“野草”だけを書き述べてみました。

野鳥情報

ツミ ◇清瀬市松山の林で繁殖。4月9日交尾。5月中さかんに餌をくわえて飛ぶのを観察。6月21日巣を発見。巣の外に2羽、中に2羽の幼鳥、親♂♀も確認。6月23日巣の中にいた2羽も巣立ち。6月25日幼鳥4羽と親♂♀確認。主として♂がカラスなどを追い払い、♀が給餌役。その後も継続して観察。(吉本富美子) ◇7月7日、北本市の農事試験場跡地付近で成鳥♂1羽と幼鳥1羽。(探鳥会参加者約10名)

サシバ ◇5月11日午後3時半、北本市の農事試験場跡地で交尾を確認。(長野博行)

センダイムシクイ ◇5月13日、浦和市の東浦和団地横で鳴き声。(為貞貞人)

タマシギ ◇6月8日、桶川市坂田の遊水池で成鳥♂2羽と若鳥3羽。(長野博行)

ヒクタイナ ◇6月9日、浦和市の小松原グラウンド付近で鳴き声。(為貞貞人) ◇6月15日、浦和の大谷口の見沼代用水で鳴き声。(近藤 崇) ◇7月7日正午、北本市石戸宿で鳴き声。(探鳥会リ-ダ-3名)

イワツバメ ◇6月12日、浦和の大谷口付近の見沼代用水で2羽。(近藤 崇) ◇6月27日、志木市の柳瀬川駅近くの東武スト

アに巣が約13ありその内3巣で繁殖確認。空いた巣の一つでスズメが営巣。(藤原寛治) ◇7月4日、浦和市道祖土で1羽。(国益 勝)

アオバズク ◇6月16日午前8時、浦和市の通船堀入口付近で2羽。(為貞貞人)

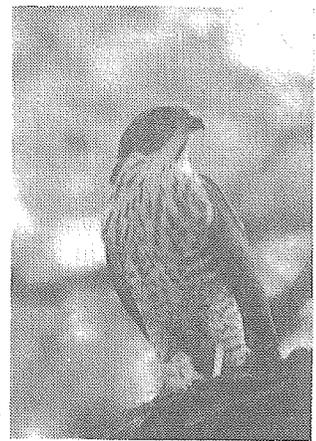
ヤマガラ ◇6月26日午前8時半、浦和市鹿手袋の自宅の庭で1羽さえずる。(海老原教子)

チュウヒ ◇6月23日、渡良瀬遊水池で♂若鳥1羽。(中島康夫、石川敏夫ほか)

コヨシキリ ◇6月23日、渡良瀬遊水池で多数。(中島康夫、石川敏夫ほか)

サンコウチョウ ◇6月30日、北本市石戸宿で親♂♀と巣立ちピナ。(探鳥会下見リ-ダ-9名) ◇7月6日、三芳町の新福寺で巣の中のヒナ3羽に尾の短い成鳥2羽が給餌。(藤原寛治)

アオバト ◇7月7日、北本市石戸宿で♂1羽。(探鳥会参加者) ツミ若鳥(撮影・吉本富美子)





野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡(なくても大丈夫)などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般=100円、会員と中学生以
下=50円

8月4日(日) スライドとバードカーピング
の集い 午前9時40分寄居駅集合(熊谷9:
09発→寄居9:36着)午後3時ごろ解散。
すずしい部屋でスライドと簡単なバードカ
ーピングを楽しもう。参加費300円(中
学生以下100円)小刀とサンドペー
パーを各自ご用意ください。(担当・田村照治、石
井生高)

8月11日(日) 熊谷市 大麻生

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅集合、
(浦和8:10発→熊谷8:59着→秩父鉄道
乗換9:09発→大麻生9:18着/秩父鉄道寄
居9:12発→大麻生9:32着)12時ごろ解散。
イソシギ、イカルチドリなど。初めてのこ
ころみとして、初級リーダー研修会とドッキ
ング。鳥だけでなく、リーダーやリーダー候補
者たちも見物できます。(担当・鈴木忠雄、
堀越照雄、今井明巨、海老原美夫)

8月18日(日) 浦和市 三室地区(浦和市
立郷土博物館共催) 参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:19
発→大宮8:02→京浜東北線乗換)または
午前9時市立郷土博物館(市立病院入口付
近)の前に集合。午後1時ごろ解散。ツバ
メの群れとタカブシギなど。(担当・楠見
邦博、福井恒人、海老原美夫)

8月23~24日 両神村親子キャンプ教室

(秩父愛鳥会共催)23日午前9時30分
秩父鉄道三峰口駅前集合。24日午後3時
48分三峰口発上り電車で帰る。参加費・大
人も子供も5,000円(食事3食、巣箱材料
代も含む。バス代は別)両神村営キャ
ンプ場で探鳥会、巣箱作り、川遊びを楽し
もう。親子で参加(小学校高学年以上なら
個人参加も可)したい方、

今井明巨までお申し込みを。

8月25日(日) 行田市 新川

午前9時高崎線行田駅集合(浦和8:10
発→大宮8:16発→行田8:52着/熊谷8:
46発→行田8:51着)午後1時ごろ解散。
大麻生から9Kmくらい下流の荒川河原。セ
ッカ、オオヨシキリ、カワセミなど。楽し
みなおまけつき。(担当・鈴木忠雄、堀越
照雄、今井明巨)

8月26日(月) 大井野鳥公園

午前9時品川駅港南口改札前集合。バス
で大井野鳥公園へ。午後1時ごろ解散。い
つも月曜日でもファンが多い大井野鳥公園。
夏休みだったら参加するチャンスです。バン
、オオバン、キョウジョシギ、ソリハシ
シギなど。(担当・佐々木勉)

9月8日(日) 秩父浦山溪谷(秩父愛鳥会
共催)午前10時秩父鉄道浦山口駅前集合。
(熊谷8:28→寄居8:57→御花畑9:42発)

9月14日(土) 渡良瀬遊水池 午前9時東
武日光線柳生駅前集合(栗橋8:52発)

9月15日(日) 本庄市阪東大橋南詰(群馬
県支部合同)午前9時高崎線本庄駅前集合
(浦和7:38→大宮7:44→熊谷8:27発)

9月15日(日) 浦和市三室地区(浦和市立
郷土博物館共催)8月18日と同じ。

9月16日(月・休日) 浦和市秋ヶ瀬地区

シギ・チドリ類カウント探鳥会。午前9
時京浜東北線北浦和駅西口集合。

9月22日(日) 千葉県谷津干潟(千葉県支
部合同)午前8時15分武蔵野線南浦和駅
西船橋方面行ホーム中央付近集合。

9月23日(月・休日) 伊奈町小室地区 午
前9時ニューシャトル志久駅前集合(大宮
8:30発)

9月29日(日) 寄居町鐘撞堂山 午前9時
寄居駅北口集合(熊谷8:28発)

探鳥会報告

6月16日(日) 浦和市 三室地区

人 83人 天気 晴 鳥 ゴイサギ カルガモ コジュケイ キジ コチドリ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 梅雨の晴れ間のすばらしい天気。なんと83人。単独探鳥会としては最高の参加者。カワセミ、カッコウと合計14羽のヒナを連れた2羽のカルガモが大人気。楽しかった。

6月23日(日) 越谷市 増林地区

人 30人 天気 曇 鳥 カルガモ コジュケイ コチドリ シラコバト キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (17種) さすがに本場、飛んでいるハトはほとんどお目当てのシラコバト。ここではキジバトの方が小数派なのだ。セッカも間近でじっくり見られた。鳥合わせと昼食は、山部リ-ダ-の尽力で、畳の上でゆったり。

6月24日(月) 大井野鳥公園

人 7人 天気 雨 鳥 カイツブリ ヨシゴイ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ スズガモ コジュケイ バン オオバン シロチドリ メダイチドリ イソシギ ウミネコ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス (24種) 降りしきる雨の中で、ヨシゴイが頻繁にディスプレイフライトを行っていた。おかげで用心深いこの鳥をたっぷり見られて大満足。雨の日もまた良きかな。

7月7日(日) 北本市 農事試験場跡地

人 70人 天気 曇 鳥 コサギ カルガモ ツミ サシバ コジュケイ ヒクイナ キジバト アオバト カッコウ アマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ サンコウチョウ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 出発前に早くもサンバが登場。さらに、2班が出発した後で、残っていた班がアオバトを発見し、全員あわてて引き返す一幕も。サンコウチョウは、人数に驚いたのか地鳴きを聞かせるだけで、姿を見られたのはごくわずか。対面を果たせずにあこがれをさらに強めた人も居たようだ。このとき、運の良い何人かはツミを見つけてご満悦。何とサンコウチョウを待っている人たちのすぐ頭の上の木にいたのだそうだ。



北本市の探鳥会にて

ちよつといい話

8月23・24日、秩父愛鳥会と共催で開かれる両神村親子キャンプ教室については、6ページでお知らせした通りですが、巣箱作りの事を聞いた堀越照治監事が、ぜひ協力したいと、曲尺(かね尺)13本を、秩父愛鳥会の宮崎章次会長にプレゼントした。子供たちの作品の出来栄も一段とすばらしいものになるに違いない。



部会制度が発足

7月7日午後、北本市文化センターで行われた役員会で、次のとおり、部会制度が発足し、それぞれ部長が選任されました。役員はすべて、どの部かに属して活発な活動が期待されています。役員でなくても、部員になることができますので、ぜひとも、各部長が事務局までお申し出ください。

総務部＝海老原美夫 普及部＝石井生高
研究部＝小荷田行男 編集部＝長野博行
事業部＝草間和子 ※敬称略

役員会の報告

7月7日(北本市) ①9月行事予定と探鳥地拡大。②野鳥レポーターの推せん。③部会制度と部長の選出。④リーダー研修会の検討。⑤密猟問題。⑥日本野鳥展の報告。それぞれに活発な意見が交わされました。

野鳥レポーターが決定されました

日本野鳥の会『野鳥』誌へ、支部を代表して野鳥情報、支部ホットニュース、探鳥会案内などを届ける、野鳥レポーターとして、長野博行幹事が決まりました。

『日本野鳥展』でのボランティア

浅見年男、新井清子、飯野辰男、石井生高、岡田裕一、小倉洋作、小倉康子、小淵健二、柏原和宏、神田佳代子、久保芳三郎、黒沢マツ江、黒沢みよ、桑原美代、酒井静子、高田文子、高原澄代、田村照治、西城戸司、萩原正二、福井恒人、福井 亘、増田 裕、町田たか子、馬場正夫、馬場勇一、村上トシ江、矢田初江、吉野和政 ※50音順、敬称略。

以上29人、延べ101人、ごくろう様でした。

題字「しらこぼと」：日本野鳥の会会長・山下静一 (イラスト風見出し・鷹尾正済)

『しらこぼと』

1985年8月号(第15号) 頒価100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦 発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号ブルムローズ岸町107号

電話0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金 316990

印刷所 埼玉印刷株式会社

新しい複写機寄付さる

昨年と同じく、浦和市内の関口事務機働さんから、消耗品一切も負担していただき、わが支部の負担は、紙代だけ、というありがたいご寄付です。

ご寄付ありがとうございます

次の方々からも、ご寄付を受けました。

桶川市児童館探鳥会参加者1,300円、田中昭二郎900円 ※50音順、敬称略。

会員数は

7月20日現在で、575人です。

事務局日誌

- 6月3日・秩父愛鳥会サマースクールへの協力依頼。
- 6月9日・支部役員会、支部総会と新役員会(熊谷福祉センターで)。
- 6月11日・芝富士公民館から野鳥教室の依頼。
- 6月18日・会員制度の件で本部へ(海老原)。
・本部指導委員会へ出席(西城戸)。
- 6月20日・シラサギ記念博物館から野鳥パネル展の協力依頼。
- 6月29日・『しらこぼと』発送作業。
- 7月5日・武蔵野野鳥生態写真研究会の中村副会長来局(夏鳥調査と写真の件)。
- 7月6日・『しらこぼと』編集会議。

編集後記

ごとの梅雨は、台風16号の大雨もはさんだためもあって、降雨量が大変多かった。でも、本報が届けられたころには、猛暑好天の連日でしょう。梅雨が明けたらもう、暑い日日ですから。さて、本報へのご批判、ご意見を、強く期待しております。(長野博行)

(無断転載を禁じます)